



売り上げを伸ばしているインターネット通販の画面。詳細な商品説明が特徴だ。

廃業寸前で3代目が後継者に

サスキの創業は1936年。社長の祖父で香川県出身の尾藤唯夫さんが作業服製造卸の「サスキ縫工所」として立ち上げた。後を継いだ現社長の父で2代目の良則さんも順調に事業を拡大し、86年には5階建ての本社ビルを建設した。

ところが、このころから安価な中国製作業服が出回るようになり製造部門はやむなく縮小。メーカーから商品を仕入れ、取引先に直接納入することにしたものの売り上げは下がり続けた。先代社長は廃業を決断。会社の歴史に幕を下ろす直前、発生したのが阪神・淡路大震災だった。本社こそ無事だったものの、自宅は全壊。当時、後を継ぐつもりもなく大手金属メーカーに勤めていた尾藤社長は予期せぬ事態に会社を立て直す決心をする。

「片付けたり、夜警に出たり、倉庫で寝泊まりしたりしていたあの時、ずっと着ていた作業服の機能性や安全性、防寒性などにあらためて気付いた。作業服を売ることで社会に貢献できると思いました」

会社に残った負債も自分が返済しようと、覚悟を決めた。28歳の時のことだ。

詳細なHPで売り上げ急増

3代目の奮闘が始まった。まずは財務を健全な状態にと経費削減を徹底。4年で借金を完済し、ようやく将来に向けた経営を考えられる環境が整った。売り上げが落ち込む中、新たな事業を探り続け、行き着いたのがインターネット通販だ。

1999年、社長自身が手掛けたホームページを開設。商品の通信販売を始めると、これが当たった。

「通販の売り上げが1カ月10万円を超えるまでは

時間がかかりましたが、そこから100万円までは早かった。2003年には月1,000万円を超え、今では会社全体の売り上げの8割を占めるまでになりました」という好調ぶり。作業服1枚から買える気軽さと、同業他社との差別化のため商品一点一点に付けた詳しい説明が人気の秘密だ。とはいえ、ネット通販専門にはならないと決めている。

「会社を育ててくれた地元のお客さまも大事にしたいですから」と、社長自ら営業に回る日々は今も変わらない。

安心して優しい企業でありたい

業績を飛躍的に拡大させる一方で、2007年には兵庫県と「子育て応援企業協定」を締結。08年からは残業が多い受注部門で、定時に帰宅すればボーナスを出す「ノー残業キャンペーン」を実施してきた。さらに09年には企業理念を分かりやすく冊子にまとめた「 credo」を策定し、会社としての理想や目標を日々の仕事に落とし込めるよう工夫した。ミーティングを取り入れたのもこのころのことだ。

「どの社員も安心して働ける、人に優しい企業でありたい。そのためにできる事はどんどんやっていきたいと思っています」

みんなが主役になり、生き生きと働くことで、顧客や社会に貢献できる会社へ。“週1ミーティング”はその実践の場だ。



創業は1936年。「神戸の作業服屋サスキ」の店舗名で、作業服や事務服、安全靴を販売する。3代目となる尾藤唯之社長以下、従業員は20代から60代までの男女6人。インターネット通販が好調で売り上げを急速に伸ばしている。

兵庫県神戸市兵庫区下沢通1-3-3

TEL 078-575-2277

<http://www.kobe-sanuki.co.jp/>